

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌学分野(佐倉):30年の歩み,そして次の10年に向けて~総合力とオリジナリティの両立~
別タイトル	Division of Diabetes, Metabolism, and Endocrinology, Department of Medicine, Toho University Graduate School of Medicine: Thirty years of history and the next decade of our division comprehensiveness and originality
作成者(著者)	齋木,厚人
公開者	東邦大学医学会
発行日	2024.03.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 71(1). p.45 46.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	教室(診療科)紹介
著者版フラグ	publisher
JaLCDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2023 057
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD77391484

教室(診療科)紹介(144)

30年の歩み,そして次の10年に向けて ～総合力とオリジナリティの両立～

内科学講座 糖尿病・代謝・ 内分泌学分野(佐倉)

教授: 齋木厚人
准教授: 清水直美
講師(医局長): 渡邊康弘

教室の歴史

佐倉病院が開院した1991年,入江實教授,宮下洋先生,伊藤嘉晃先生の少数精鋭で当教室の前身である内分泌代謝班が発足しました。その3年後に赴任された白井厚治先生(臨床検査医学,のちに当教室二代目教授,病院長)が強力なリーダーシップを発揮され,若手メンバーとともに難治性肥満症や動脈硬化に対する画期的な診療や,臨床・基礎研究がスタートしました。とくにメンタルを重視した肥満症チーム医療は現在でも佐倉病院の特徴のひとつですが,その黎明期には当時の若手リーダー小山朝一先生が中心的役割を果たされました。2001年には診療体制が「糖尿病・内分泌・代謝センター」と変わり,外来・病棟看護のユニット化をいち早く取り入れました。研究面では新規インスリン抵抗性マーカーの確立,酸化ストレスによるプラーク破綻機序の解明,低糖質食やフォーミュラ食を用いた肥満糖尿病治療,各種抗酸化療法への挑戦,血管機能検査CAVIなどオリジナリティに富んだ研究が行われました。2011年には龍野一郎先生が三代目教授に就任し,新たに内分泌,骨,尿酸,脂肪酸代謝の分野が強化されると同時に,肥満症治療では国内に先駆けて減量・代謝改善手術を導入しました。対外的にも肥満症治療学会の理事長として,また厚労省龍野班の代表としてわが国の肥満症診療を推進する立場となられ,当教室はガイドラインの策定,主催学会や全国的なセミナーの開催を通じて,国内随一の肥満症治療施設としてプレゼンスを高めました。

現在のスタッフ構成

2022年には,東邦大卒で佐倉病院生え抜きの私(齋木厚人)が四代目教授を拝命いたしました。今度は私が若手や新しいリーダーを育成する番です。代謝の現役医師をご紹介しますと,若くして講師に昇任した渡邊康弘先生,滋賀医大から肥満症の勉強に来られた助教の堀川修先生,重症患者を多く抱えながら研究も推進する最若手の山岡周平先生…じつは私を含め4名のみです。しかし当教室の自慢である研究助手の高橋由佳さんと肥満症治療コーディネーターの辻沙耶佳さんが基礎研究からデータベースからすべてを支えてくださり,加えて栄養部,外科,メンタル,理学部,他施設からの協力体制があり,さらには開業医でOBの永山大二先生も研究指導にあたってくださり,小規模の教室としては十分以上のアウトプットを国内外に発信しています。また当教室は神経内科や腎臓内科の黎明期をサポートした歴史がありますが,2014年からは血液内科を内包し,准教授の清水直美先生,助教の中尾三四郎先生とともに仲良く診療と研究を行っています。

診療と教育体制

まず佐倉内科は6グループで1つの総合医局を構成しており,卒後教育は「総合力と専門性を高度に兼ね備えた医師の育成」を理念としています。当教室も救急,他院,他科からの重症例,分類不能例,難治性肥満症例など「なんでも診る」つもりで積極的に対応しています。当教室は県内屈指の糖尿病診療実績を誇り,さらに総合的な代謝内分泌科として,持続血糖モニタリングやインスリンポンプを用いた糖尿病治療,甲状腺腫瘍に対するエコー下穿刺吸引細胞診,他科と連携した副腎静脈カテーテル検査などの高度な診療を提供しています。加えてオリジナルの健康管理ファイルを用いた外来個別指導,肥満症チーム医療(オベシティカンファ),外来・病棟看護のユニット化など,独自性のある診療体制も特徴です。外科治療は年間40~50例という大学病院随一の件数を極めて高品質なチーム医療で提供しています。将来的に「高度肥満症治療センター」の設置を目指しています。

研究面の実績と展望

私たちはこれまでインスリン抵抗性や酸化ストレスがVascular Agingを促進させることを明らかにしてきました。究極的には血管の不老長寿を目指し,Vascular Agingの原因や治療法を突き止めることが私たちの夢です。現在,日常業務に追われながらも各自オリジナリティのあるプロジェクトを動かしており,その進行中の一部を紹介します。



当教室のメンバー（敬称略）：下段左から中尾，清水，齋木，渡邊，上段左から山岡，堀川，高橋，辻，佐藤（外来クラーク）

渡邊先生：変異 ChE の動脈硬化抑制機構，PEMA-CAVI study など，堀川先生：皮下脂肪の減少不良因子 TNMD など，山岡先生：肥満心筋症の脂肪酸代謝機序解明，乾癬患者の CAVI 上昇機構の解明。私も指導役を務めつつも若手に混じり，動脈硬化を抑制する良性肥満因子の解明などの研究を行っています。私たちの仕事は要するに，医療を通

じてどう社会貢献できるかです。根底には思いやりの心を持ち，常識やガイドラインにとらわれず患者さんから直接肌で感じた発見や疑問を大切に，次の10年に向けて佐倉病院ならではの臨床・研究・教育を推進していく所存です。

（齋木厚人）

DOI : 10.14994/tohoigaku.2023-057